

2005 年を迎えて

2005 年 1 月 1 日 荒井 徹

皆さん、明けましておめでとうございます。

3 シフトの皆さんにあっては、年末年始期間も通常通りの勤務に従事し、365 日休み無くサービスを提供するエアラインを最前線で支えていただき、ありがとうございました。

さて、昨年は JALTAM にとって大きな変革の一年でしたが、皆さんの努力によって全て計画通り実行し、未来への道筋を作ることができました。改めて皆さんにお礼を申し上げたいと思います。今年もまた、急速に成長を続ける JALTAM には多くの課題があると思われますが、これらは年度計画が定まってから具体的にお話することとし、年の初めに当たって JALTAM の将来にとって大切な「心構え」についてお話しをしてみようと思います。

まず第一にお話したいのは「思い遣りの心」です。常日頃お話している様に JALTAM は色々な経歴を持った人々の集まりです。正社員、出向者、知識の間口を広げて資格取得を目指す人、間口は狭いものの深い技量を目指す人、歳を取って記憶力は衰えたものの夢を追って挑戦しつづける人、成功した人、運悪く失敗した人、これらは皆 JALTAM にとってかけがえのない人々です。毎日着実に整備を遂行していく上でこれら多種多様な人々が一つの方向に向かって努力しなければ組織としての結果は得られません。強い人は弱い人を支える、知っている人は知らない人に教える。JALTAM には独りよがりの優秀な人は必要ありません。

昨年一年間全社一丸となって“整備のプロフェッショナルを目指して”ミスワークの撲滅に取り組んできましたが、残念ながら目標を達成することが難しい状況になっています。皆さんも知っていると思いますが、原因の大半はごく基本的なことを守れなかった事です。当たり前前の事を当たり前にするということが如何に難しいか皆さんも実感していると思います。モノレールで出勤する時に消防署の救命隊員が厳しい訓練をやっているのを見ることがあります。彼らはいざという時に当たり前前のことが出来るように繰り返し単調な訓練をしているのだと思います。“如何なる状況にあっても”当たり前前のことをやる為には、毎日毎日整備作業の中で「当たり前前なことを愚直に積み重ねていく」しか方法が無いのです。

最後にお話したいことは JAL グループの経営状況に関連する話です。想定を大幅に上回る石油価格と生き残りをかけた厳しい競争環境の中で、他のグループ会社同様 JALTAM も今年は我慢をしなければならない一年になると思われます。エアラインが厳しい競争の中で苦しんでいる状況下では、我々整備会社はコスト増に結びつく僅かな無駄も許されないことは言うまでもありません。しかし一方で我々の本分である整備作業でもっと積極的に貢献する道があります。それは「納期の短縮」です。昨年我々は 7 6 7 の C 整備で納期の短縮を実現し、それがエアラインの収支に大きく貢献する経験を致しました。我々の第一の使命である早期のスキルアップを犠牲にすることは許されませんが、知恵の限りを尽くして“整備の本分”である納期短縮に挑戦しようではありませんか。

今年も力をあわせてがんばりましょう

以上